

子どもにも国保税負担はおかしい。やめるべきだ

全国知事会や市長会なども国に要求

「国民健康保険税を子どもにもかけるのはおかしい。やめるべきだ」……こういう声を受けて日本共産党は国会や市議会などで改善を求めてきました。

これに対して一部の関係者は、「子どもも含めて応分の負担をしてもらう仕組みだ」（昨年2月7日、当時の根元厚生労働大臣）などと居直っています。

そんなことでいいのでしょうか。

国民健康保険で子どもにまで税金をかけることになっているのは、国民健康保険税で「均等割」があるからです。これは国保加入世帯の人数に応じて課税するもので、赤ちゃんから大人までかかりま

す。この結果、子どもを含めて家族が多くなるほど保険税が高くなります。これでは、「負担能力に関係なく頭数で負担を課すのでは、古代の人頭税と変わらない」「子育て支援への逆行だ」という声が出るのは当然です。

こうしたなか、全国知事会や市長会などが均等割の見直しを再三要望し、国も検討するとしてきました。昨年7月23日、全国知事会が行った「少子化対策の抜本強化に向けた提言」でも、「国民健康保険の子どもに係る均等割保険料軽減措置の導入」を盛り込んであります。国は早急に検討してほしいものです。

同時に、国などの動き待ちになるのではなく、関係自治体の努力も必要です。私たちの調査では、昨年3月段階で、新潟県佐渡市を含む全国の25の市と町で、子どもの数に応じてかかる均等割額について、独自に減免する仕組みが作られ、さらに広がっています。

上越市の国保加入世帯での子ども数は1936人（2019年12月末現在）。国民健康保険税均等割の子ども負担廃止に必要なお金は約6000万円です。上越市でも積極的に検討し、ぜひ取り組んでもらいたいものです。



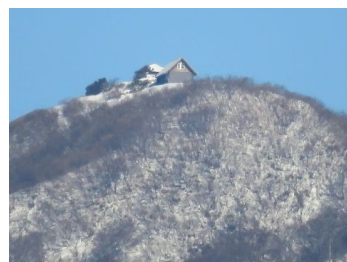
祝賀会のあとは雪上運動会。玉割り、当たりくじ箱を持って逃げる人を追いかける種目もおきました。全員参加のじゃんけんゲームは楽しく続けました。子どもだけを対象にしたじゃんけんには、「年よりこどもだけ」と言って参加しようとする人たちもいて、笑いの絶えない運動会になりました。

イラストは「サイの神」。参加者はこの他にも10人ほどありましたが、描き切れませんでした。ごめんなさい。

恒例の川谷冬まつりが12日、行われました。おすかでしたが、雪はありました。冬まつりは雪がないと雰囲気が出ません。あって良かったです。

体育館の中でまず、新年祝賀会です。会では、来賓がそれぞれ挨拶し、乾杯した後、餅の三人搦ぎを行い、美味しい雑煮、黄な粉餅、手作りの料理をいただきました。

参加者との交流で「世間は狭い」と思ったのは、大島区板山とかかわりのある人が参加していたことです。その人の父親とは高校時代、1年間下宿が一緒でした。アメリカ文学を研究されていたという人が吉川町史に関心を持ち、熟読してくださっていたという話にも感動しました。お家が修験道にかかわる「坊」の一つだったという話にも関心を寄せていただきました。



米山山頂。12月25日、吉川区小苗代にて撮影。



【ヒメオドリコソウ】再掲。シソ科の1年草。漢字で「姫踊草」と書きます。昨年の12月頃から咲いています。写真の花は近くの農道で見つけたものです。花の咲き具合のせいなのか、ニワトリのように見えます。花言葉は「陽気」「春の幸せ」など。

はしづめ法一の活動レポート

No.1943 2020.1.19
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五九一回 「えご」

「えご」をご存じでしょうか。「自分中心」といった意味の「エゴ」ではありません。食べ物の「えご」です。

先日、従兄の家でお茶を「馳走になった際、久しぶりに「えご」と出合いました。従兄の連れ合いのA子さんが出してくれたのです。「えご」は私の好物の一つ、ちよっぴり醤油をかけていただきます。

A子さんが出してくれたものは、この「えご」だけでなく、手づくりサラダを含め、みんな美味しかったのですが、そのなかでも「えご」は味といい、少しざらっぱい舌触りといい、最高でした。

「えご」は子どもの頃から食べてきた郷土料理です。

わが家では、母が作ってくれました。虫場にわが家があった時代、わが家は柏崎市笠島から赤色の「えご草」を仕入れました。それを母が洗って、カヤとかヨシ、場合によってはワラの上のせて日にさらしていました。こうすると白くなるのです。家のそばで、さらしているときの、ほのかな磯の香り、忘れられないですね。母によると、いくらきれいに洗ったつもりでも、細い棒や屑が入っていることが多かったとか。天日干した時点で、それらを選別し、捨ったと言います。

その後の「えご作り」は、どこの家でもやっている通りです。水を一定量入れて「えご」を煮る。鍋の底で焦げ付くことがないように、ゆっくりと混ぜながらとろみがつくまでやる。それで、あとは固めて冷やせば出来上がりとなります。

従兄の家でいただいた「えご」には辛子がのせてありました。従兄の居住地域では醤油と辛子で食べるんですね。わが家では酢味噌でしたが、私はどっちも好きです。従兄の家でのお茶会は、A子さんだけでなく、隣集落の子子さんも一緒でした。

「えご」をゆつくり味わいながら、私も時々しゃべりましたが、おしゃべりの中心は二人の女性です。

最初はやはり「えご草」をめぐる話題でした。「採る人が少なくなったらしい」という話から始まって、「売っているところも少なくなった」とか「えご」を練る人も減ってきていること……といった調子で話が弾んでいきました。最近、「えご」を口にすることで機会が少なくなったのにはそれなりの背景があったんですね。

続いて、地元の話です。「おらほでも空き家が増えてきたこと。切ないね。夫婦して施設に入ってる人もいなるし……」、「子どものところへ行っても付き合う人がいればいいけど、いないとね……」。また元の所に帰ることがあるすけ、家は残しておいた方がいいかも」。こういった話は、他人ごとではありません。そうそう、近くのお寺の住職さんが交通事故にあっただらしいという話も出ました。心配です。

そうこうしているうちに、従兄が戻ってきて、それからは四人でのお茶会です。田んぼをたくさん耕作している従兄からは、「夏の田んぼの水が心配だ」「最近九州でも北海道でもうまいコメがとれる」「夏場は空からも水が落ちてこない」と等級は下がる」などといった話が出ていました。異常気象で再び不作となるのが心配なんです。

従兄の家で、「えご」の味をほめたら、A子さんに「おまんちのお母さんも上手でいなる」と言われました。そう言えば、母の作った「えご」、もう五、六年は食べていません。残念ながら、母が作るのはいりません。無理です。先日、インターネットで調べたら、笠島産の「えご草」を使った「えご」の作り方が動画で紹介されていました。今度母に食べさせてあげたいものです。

吉川区の山間地域、源地域で新年祝賀会



11日、吉川区の山間地域、源地域の新年会に参加させていただきました。

冒頭、主催者代表として挨拶した源地域づくり会議の村松代表は、旧吉川町時代の2つのビデオを紹介しながら、今後の地域づくりについて語りました。来賓挨拶では、総合事務所の小林所長が市の取組を紹介しながら参加者を激励しました。

私も、昨年秋に、東京の神田神保町の本屋で知った「家族農業の10年」の取組と源地域、とりわけ川谷地域の取組の先進性について言及、「地域内で経済がまわっていくことが大事」などといった話をしました。

交流会では、ミニコンサートがあり、高崎アンド和田のお二人が



「りんごの歌」「上を向いて歩こう」など懐かしい曲を披露。美しい声にしみれました。美味しいご馳走に手を伸ばしながら、参加者は「懐かしのビデオ、映像を楽しむ会」をやる、などと盛り上がりました。

出されたご馳走の中には「シシナベ」(写真左)がありました。肉はとろけるほど柔らかくて、最高でした。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 1月8日(水) | 1月15日(水) |
|--------|---------|----------|
| 上越南消防署 | 0.047 | 0.047 |
| 上越北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 新井消防署 | 0.047 | 0.047 |
| 頸北消防署 | 0.053 | 0.047 |
| 頸南消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 東頸消防署 | 0.050 | 0.060 |
| 高士分遣所 | 0.047 | 0.043 |
| 名立分遣所 | 0.057 | 0.053 |